

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【公開番号】特開2003-180640(P2003-180640A)

【公開日】平成15年7月2日(2003.7.2)

【出願番号】特願2002-262194(P2002-262194)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 B 5/022

【F I】

A 6 1 B 5/02 3 3 7 F

A 6 1 B 5/02 3 3 3 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年9月6日(2005.9.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

従来の自動間接的血圧読取り装置は振動測定法を採用しており、該方法では、腕のカフを膨張させて、血液の流れが閉鎖される圧力まで加圧する。次いで、カフを所定の圧力変分ずつステップ状に減圧させる。各ステップで、カフ内の圧力が、圧力の変動を検出するために適当なサンプリング期間を用いて、繰り返し測定される。カフ内の瞬時圧力は、膨張圧力と各心拍動中の患者動脈内の血圧脈動によって加えられる力とに起因する。心臓の拍動は、或る減圧ステップでカフ内の圧力を振動させることができる。装置はこの態様の動作を、振動振幅対カフ圧力の完全な包絡線が得られるまで継続する。最大振幅の振動が得られるカフ圧力は、平均動脈血圧を表す。また、包絡線データの所定の関数から収縮期血圧及び拡張期血圧の推定値も決定される。振動測定法により決定された収縮期血圧、M A P及び拡張期血圧は、眞の動脈内血圧値の推定値と見なされる。しかしながら、動脈の伸展性(コンプライアンス)が血圧推定関数に主要な役割を果たすことも知られている。動脈の伸展性は生理学的環境が変化するにつれて複雑で予測不可能な態様で変化する恐れがある。

【特許文献1】米国特許第6 1 8 6 9 5 3号